



## 令和8年度「魚つかみ楽しみ隊」実施報告書

### I 事業の概要

1 期日 令和8年5月24日(日)

2 日程

午前の部	午後の部	5月24日(日)
9:30	13:30	受付開始
10:00	14:00	出会いのつどい(つどいの広場)
10:15	14:15	魚つかみ(河川プール)
11:00	15:00	魚を焼いて食べる(つどいの広場) 片づけ・感想記入
11:30	15:30	解散



3 ねらい

- ・魚つかみを行うことで大自然を満喫するとともに家族の親睦を深める。
- ・生きた魚に触れる体験を通して、命の尊さを学び、食べることへの感謝の気持ちを育む。

4 対象 家族および一般 ※午前・午後各16組

5 応募者数 254名(午前41組161名、午後25組93名)

6 参加者数 午前16組 52名 午後15組 54名 計31組 113名  
学生サポーター7名



### II 実施状況

本主催事業「魚つかみ楽しみ隊」は、例年参加者の皆さんに好評を得ている人気企画となっている。当日は、やや低い気温の中ではあったり、午後の部後半に雨に降られたりしたものの、無事午前・午後と開催することができた。

今年度は、「生きた魚に触れる体験を通して、命の尊さを学び、食べることへの感謝の気持ちを育む。」ことを活動のねらいの1つとした。つどいの広場にイワナを泳がせた水槽を展示し、魚つかみ活動で掴まえる魚を参加者により身近に感じてもらえるようにした。子どもの参加者を中心にイワナが泳ぐ水槽の前で魚をじっくりと観察する姿が見られた。また、職員や学生サポーターの安全面を考慮して、火起こしをBBQコンロの移動距離が短いつどいの広場横で行った。

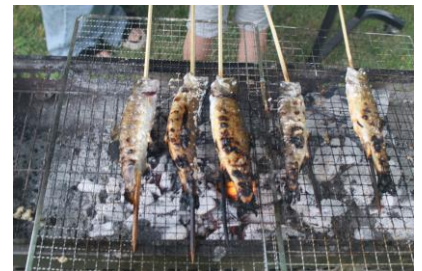
魚つかみ活動では、まずは手づかみに挑戦していただいた。その後、例年通り追い込み用の網を使って範囲を狭めていくことで、魚を掴みやすいよう



にした。午後の部の魚つかみ活動で、魚がいけすから逃げってしまう出来事があった。職員や学生サポーターで、逃げた先のいけすから元のいけすに魚を戻したり、魚つかみ活動の時間を延長したりして対応にあたった。いけすの魚が減ってしまったことで魚を十分に掴むことができなかつた参加者の方には、魚・炭代の払い戻しを行った。

掴まえた魚は組ごとにバケツに入れてつどいの広場に持ってあがり、調理していただいた。組ごとに調理台で魚の串刺し、塩での味付けを行い、空いているBBQコンロから使用し、焼いていただいた。魚に竹串を通す時にケガがないよう、指導員や学生サポーターで見守りや補助を行った。つどいの広場で船上山少年自然の家周辺の自然を感じていただきながら、自分たちで焼いた魚を味わっていただくことができた。

本主催事業は、魚をつかみ獲り、その場で焼くという日常ではなかなか味わえない体験をしたり、参加された家族同士が交流を楽しんだりできる。また、食べ物の命をいただき、食べることへの感謝の気持ちを育んだりすることができる大変貴重な機会となっている。今後もチラシやSNSなどで本主催事業の発信を続け、安全面での配慮や活動内容に工夫を加えていきながら、より多くの方に参加していただけるように継続していきたい。



### Ⅲ 総括

#### 1 参加者の感想(抜粋)

[子どもさんから]

- ・魚を獲って食べるのが楽しかったです。
- ・意外と楽に獲れました。美味しかったです。
- ・焼き加減が最高で美味しかったし、うれしかったです。
- ・追いこんで獲ると良かった。イワナは隅っこに集まっていた。



[保護者の方から]

- ・子どもも大人も楽しめる企画でとても良かったです。
- ・豊かな自然環境の中で、水の冷たさ・魚の命を感じ味わう一連の流れがとても良かったです。
- ・子どもが「焼きたくない、家に魚を連れて帰りたい」と言いました。その後に「焼いたら死んじゃうでしょ」と子どもなりに食べることは、生きものの命がなくなってしまうことだと分かる体験になりました。
- ・自分でつかまえて自分で焼いて子供たちが「おいしい」と顔を見合わせていて、自分で焼いた魚は格別でした。
- ・片付けも子どもとできてとても良い経験でした。

#### 2 成果

- ・水槽を用いた魚の展示は、興味をもって観察していた参加者の様子があった。
- ・番号付のバケツと領収書の番号が一致していて、参加者にとって分かりやすく良かった。

#### 3 課題

- ・午後の部で魚がいけすから逃げてしまい、参加者に迷惑がかかってしまった。事前の説明を十分に行ったりサポートする指導員や学生サポーターの立ち位置を決めたりして、再発防止に努めたい。